

前回のあらすじ

ニス、ペンキ、オイルと仕上げによる音の傾向を実験し、最も自然で素材の良さを引き出すのはオイル仕上げだという結果になった。今までの試作機はパツフルだけ無垢のメープルだったが、今回はいいよキャビネットをウォールナットとしたオール無垢によるスピーカー試作機第2号を完成させた。果たしてその音は。

岸 いよいよ最終仕様には近い、オイル無垢による試作機を作ってきました。パツフルはメープル、キャビネットとホーンはウォールナットのオイル仕上げです。容積やネットワークは過去の実験結果を踏襲しています。この試作機だけでも大変なコストがかかっているので、良い結果になることを祈ります。

吉野 絶対大丈夫ですよ。試作機1号が最終的に満足行く音になってたので、そこをさらに大きく超えるかと思うと、とても楽し



前回は樹種と仕上げの違いをいくつか用意し聴き比べ、邪道的にはオイル仕上げが最も良い結果となった

しみです。
岸 オール無垢にすることによって響きすぎてコントロールできない、なんてことにならなければいいですが、とにかく、聴いてみましょう。

オール無垢試作機2号、試聴開始

岸 ……(笑)

吉野 これ、ヤバいっすね(笑)。仕事柄、何百種類のスピーカーを聴いてきましたが、正直こんな音、今まで聴いたことがありません。信じられない！ パーフェクトバランス。

岸 超自然ですよ。生の演奏に近いですよ。目を閉じるとそこで演奏しているような。フワッと音が出てきますね。

吉野 レンジが狭いとか、音色がどうのこうのって言うのが野暮なくらい、音楽に入り込めますね。なんて言えばいいんだろう、電気的なストレスがないとか、アンプやプレーヤーの存在すら消えますね。鳥肌モノです。ギターのアタック感の实在感が半端じゃないです。僕が普段聴かないクラシックとかオーケストラも聴いてみましょう。耳タコの試聴室にあるリファレンス盤です。

岸 これは、ホールで聴ける音ですよ。ヴァイオリンがスーッと抜けてかつ力強い。
吉野 いや、こりやたらまんすね。すみません、クラシックって初めていいと思えました。クラシックこれから聴こうかな(笑)。ちょっと編集部の守屋を呼んでください。
岸 今までモノラル化して聴いてましたが



1号機と組み合わせてステレオ再生。音のビッグウェーブに飲みこまれそう



3週間のエージング後、吉野自宅を試聴。30cmは結構デカイ



吸音材として使用済みバスタオルを入れる

しくは、音が交わらなくてバランスが崩れるかと思いましたが、全然そんなことない。むしろ2倍良くなった。1本で鳴るスピーカーはステレオでは2倍良くなる。逆に、世の中のステレオスピーカーは1本でも満足いく音が鳴るんだろうか。
岸 そこは、各自試していただくとして、あまり触れないようにしましょう(笑)。
(守屋登場)
守屋 どれどれ。えっ、これは…。何枚もペールをはぎ取ったような鮮度感。なんじやこりや。禁断の音だね。
吉野 でしょ。しかし、作りたてで、この音。エージングしたらさらに化けそうですね。
岸 エージングってそんなに変わるんですかね。鳴らしこんで、再度聴いてみましょう。

3週間後 吉野宅にて

岸 3週間、工房で毎日鳴らしこんできました。結構変わりましたよ。もしかしたら吉野さんの好みとはバランスがずれていったかもしれない。工房に来たお客さんは皆これを聴いてニヤニヤしてましたよ。笑える音なんですな。
吉野 今回は、実際に我が家で聴くことにしました。今まで試聴室だったのでまた違うかもしれない。

岸 ではセットし、聴いてみましょう。
【試聴】

吉野 あれ、悪くないけど、低音が物足りないな。高域がちよっとうるさいな。こんなもんだっけか。すみません、我が家では

連載 新感覚オーディオクラフト

億流スピーカー!

邪道を往く

第7回 オール無垢キャビの音

アクロージュファニチャー 岸邦明 × ステレオ編集部 吉野

アクロージュファニチャー <http://www.acroge-furniture.com/>

前回まで使用してた試作機邪道1号と組み合わせるステレオで聴いてみませんか？ステレオ再生だとうなんだろう。
邪道1号、2号で夢のステレオ再生
吉野 うひゃー、音の洪水ですね。気持ちいい。今まで1本で調整を詰めていって、もしかしたら2本にしたら、鳴りすぎ、も



オール無垢キャビ内部。ホーン部もウォールナットという贅沢ぶり



邪道2号機。オール無垢は高級感が違う。果たして音は？

前の感動がありません。エージング失敗かな。
岸 おかしいな。そんなはずでは。吸音材を入れてみますか。
吉野 とりあえず、うちの臭いバスタオル入れてみますか。
【試聴】

岸 音が整理されたけど、つまなくなってきた。効きすぎかな。紙のロープを入れてみましょう。
吉野 バスタオルよりはいい。いい塩梅に音が整理されて聴きやすくなった。でもやっぱり低音が物足りない。ピンテージユニットの限界なのかな。あ！ ちよっと、待ってください。岸さんスピーカー持ち上げて下さい。岸さんが持ち上げている間はいい低音が出る！

岸 何と！ つまり、スタンドか！ たまたまあった、杉の角材に置いてみましょう。
【試聴】

吉野 おー低音が出てきた。ようやく本調子ですね。これこれって感じですよ。やっぱり脚はこつくないとダメなのかな。
岸 ようやくいい音出しましたね。杉という異素材なのがまた良かったのかも。楽器でも様々な樹種を使うじゃないですか。でも見た目が酷いね。これじゃデザイン性のか

けらもない。
吉野 今まで使ってた脚、シンブルで気に入ってたんだけど、残念です。じゃ、次のテーマは脚ですね。岸さん、かっこよくて低音がしっかり出るやつお願いします！

岸 難しいテーマですね。ほんとオーディオはキリがないね(笑)。



持ち上げながら再生すると、ふくよかな低音が。そういえば、昔、江川先生が、人間がスピーカーを持つと一番音がいいと言っていたような



今まで使っていた脚。ウォールナットによるシンブルなデザインが良かっただけに残念



角材を置いた邪道2号機。岸さんかっこよく仕上げてくださいますようお願いいたします

SPクラフトマスターの辛口コメント エージングとは聴く部屋で行なうもの。自宅で数週間鳴らして判断するのが良い。部屋の鳴り方に合ったところで納まって来る。本来は専用スタンドに頼らなくても良く鳴るスピーカーが一番だが、箱を鳴らすデザインのスピーカーなので、脚も含めたトータルセッティングが必要なのだろう。